ダニエル書5章30節 「バビロンの終焉」

1A 神に敵対する世
　1B 天地創造前後
　2B 新バビロニア帝国
　3B 大淫婦バビロン
2A バビロンに対抗する神の都
　1B 生まれ故郷から約束の地
　2B メルキデゼク
　3B ダビデ王朝
　4B 天のエルサレム
3A バビロンの破滅
　1B 諸国の軍隊
　2B 主の日の暗黒
　3B 永遠の廃墟
　4B 御民の避難
　5B イスラエルの回復
　6B 国々の嘆き
　7B 偶像礼拝への裁き

本文

今晩は、5 章 30 節をまず読みます。「30 その夜、カルデア人の王ベルシャツァルは殺された。」前回、5 章においてバビロンが、メディア・ペルシアによって倒れたところを読みました。歴史的な出来事としては、ダニエル書５章のみになりますが、この出来事にまつわることが聖書全体に、膨大な量で書かれています。回数としては、バビロンは、神の都エルサレムの次に最も多く書かれている、大きな都です。

このバビロンが滅んで、その後の征服者キュロスがユダヤ人を解放します。そして、エルサレムに帰還し、そこで神殿を建てるように命じます。これが、神の救いの壮大なご計画の、一つの原型となるのです。つまり、この都が倒れ、滅び、そして神の民が解放されてエルサレムに戻るということは、世の支配が滅び、神の民が解放され、神の立てられる国の都に入れられるという流れです。御霊によって、神の子どもにされた者たちが、この世においてうめいていますが、キリストが今の悪い世から私たちを救い出し、世を滅ぼされ、神の国の中に入れてくださるという流れなのです。そして、バビロンこそが世とその欲を象徴している存在であり、バビロンは徹底的に滅ぼされます。

1A　神に敵対する世

1B　天地創造前後

　これまでも、何度となくお話ししましたが、神のご計画の中でバビロンは、世の始まりから、神に反対する勢力として出てきます。

　イザヤ書 13 章と 14 章に、神がバビロンをメディア人によって滅ぼし、これを裁かれる預言があります。14 章には、バビロンの王に対する預言があります。けれども、聖書の預言をじっくりと見ていくと、神は目に見える勢力だけでなく、その背後にある目に見えない勢力も含めて語られて行きます。バビロンの王に対して語られていますが、世の終わりにおける、バビロンを支える存在、獣に対する裁きが出てきます。9-11 節を読みます。

9 よみは、下界でおまえが来るのを迎えようとざわめき、死者の霊たち、地のすべての指導者たちを揺り起こし、国々のすべての王をその王座から立ち上がらせる。10 彼らはみな、おまえに告げる。『おまえもまた、私たちのように弱くされ、私たちに似た者になった。』11 おまえの誇り、おまえの琴の音はよみに落とされ、おまえの下には、うじ虫が敷かれ、虫けらがおまえの覆いとなる。

　黙示録 17 章には、バビロンが多くの王と淫行を働く大淫婦として描かれ、その女を乗せているのが、この獣、反キリストです。バビロンが滅び、その後で反キリストがキリストご自身によって滅ぼされます。それが 19 章 20 節に書かれています。「しかし、獣は捕らえられた。また、獣の前でしるしを行い、それによって獣の刻印を受けた者たちと、獣の像を拝む者たちを惑わした偽預言者も、獣とともに捕らえられた。この両者は生きたまま、硫黄の燃える火の池に投げ込まれた。」

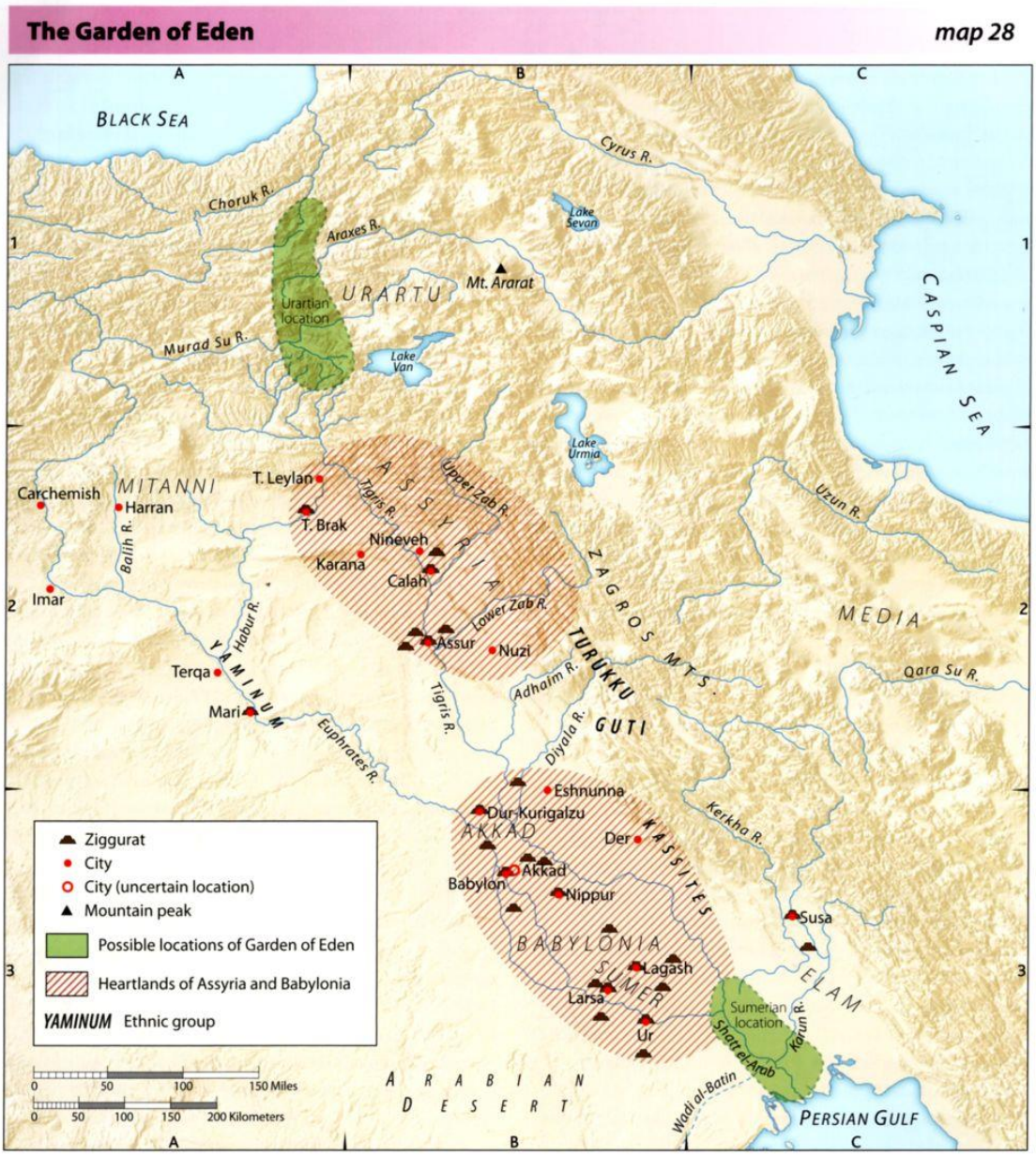
　その獣は、黙示録 13 章 2 節によると、悪魔が彼に「自分の力と自分の王座と大きな権威を与えた。」とあります。その悪魔の姿が、イザヤ書 14 章、獣についての預言の次に登場します。

12 明けの明星、暁の子よ。どうしておまえは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしておまえは地に切り倒されたのか。13 おまえは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山で座に着こう。14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』15 だが、おまえはよみに落とされ、穴の底に落とされる。

　そしてイザヤ 14 章は、再びバビロンの王に対するあざけりの歌が続きます。このように、ベルシャツァル王が倒されたことを預言する中で、終わりの日に神が行われる、反キリストと悪魔に対する裁きを語られ、バビロンの背後に働く霊的な存在を明らかにしておられるのです。

　今、読んだ、14 章 12 節に、明けの明星が「天から落ちた」とあります。まことの永遠の王、神の玉座のところから、彼は落ちます。最終的には、火の燃える池、ゲヘナに投げ込まれますが、そこ

に至るまで、順を追って落ちていきます。初めに落とされたのが、エデンの園です。ここから、創世記 2 章と 3 章の背景が出てくるのです。



[1]

エデンの園がどのあたりにあったのかは、その流れている川で分かります。「創 2:14 第三の川の名はティグリス。それはアッシュルの東を流れていた。第四の川、それはユーフラテスである。」第一のピションはアラビア半島へ、第二のギホンはクシュ、今のスーダンを巡って流れていましたが、それが今はどうなっているか分かりません。けれども、ティグリス川とユーフラテス川は分かっています。その上流は、アララト山に近いトルコ東部の地域であり、下流は今のイラクにあります。調べますと、エデンの園はその上流部分か下流部分にあったのではないか？と言われています

[1] https://creation.com/eden-1

が、中心がそのどちらかで、聖書の舞台になっているイランからアフリカまでの全域だったのではないか？と私は想像しています。地殻変動もその後にあったので、分かっていません。

けれども、中心は今やメソポタミア地方と言われる、ユーフラテス川とティグリス川の間は、北のほうはアッシュル、南の方はシンアルと呼ばれる地方で、アッシュルが後のアッシリア、シンアルが後のバビロンです。アッシリアとバビロン、どちらも何をしましたか？はい、アッシリアは北イスラエル王国を滅ぼし、バビロンは南ユダヤ王国を滅ぼしました。ここから、エデンの園のところに、神の民をかき乱し、滅ぼそうとする悪の勢力がいることが伺い知れます。

エバが、エデンの園の中で、蛇の惑わしを受け、アダムが罪を犯しました。そしてノアの時代の洪水があって、アララト山の付近から、新しい世界が始まりました。ところが、民は移動して、平らなところを探します。アララト山の付近は山地ですが、ユーフラテス川とティグリス川を下っていくと、シンアル地方は平地になっています。そこに移動して、そこにある権力者が現れます。ニムロデです。「創世 10:9 彼は【主】の前に力ある狩人であった。それゆえ、「【主】の前に力ある狩人ニムロデのように」と言われるようになった。」とあります。ここは、「主に対して力ある狩人」と訳すことができ、つまり主ご自身に反抗する権力者とも言えるのです。この彼が、シンアルとアッシュルの地に都市を建てていきます。「10:10-12 彼の王国の始まりは、バベル、ウルク、アッカド、カルネで、シンアルの地にあった。11 その地から彼はアッシュルに進出し、ニネベ、レホボテ・イル、カルフ、12 およびニネベとカルフの間のレセンを建てた。それは大きな町であった。」

そして、創世記 11 章を見れば、人々がシンアルの地に集まり、そこで町を立て、塔を建てて、天に届こうとしました。自分たちの名をあげようとしました。神が介入し、ことばをばらばらにされ、そこがバベルと呼ばれるようになります。今も、ジグラトという塔の跡がウルの町などに残されています。その頂上で、天や星の天体をあがめ、占星術ができ、また神々をあがめる偶像礼拝の発祥地となっていきました。ここから、ますます明らかに、バビロンが神に反抗する都であることが分かります。世の制度そのものを象徴しています。

2B 新バビロニア帝国

そして、長い月日を経ました。神の民イスラエルには、ダビデを王とする国が出来、その王朝が続いていました。アッシリア帝国が生まれ、彼らは大量捕囚政策を取り、北イスラエルの人々を捕え移しました。アッシリアの次に、バビロニア帝国が台頭しました。カルケミシュの戦いでバビロンのネブカドネツァル王がアッシリア王の残党を滅ぼしました。そして南ユダの人々を捕え移していったのです。バビロンは、見ての通り、エルサレムの宮の器を持っていき、自分たちの神々の宮に移し、その最後の王はその器でバビロンの神々を賛美しました。しかし、突如として滅びます。これもまた、将来の世の終わりを象徴しています。突如として、世界を牛耳っていた世が滅びます。

3B　大淫婦バビロン

しかし、バビロンが滅んでも、その霊の残骸と呼んでよいでしょうか、それはずっと存在し、世の終わりまで続きます。世の終わりにおいて、ユーフラテス河畔は悪霊どもが住んでいるところとして黙示録は描いています。「黙 9:14-15 その声は、ラッパを持っている第六の御使いに言った。「大河ユーフラテスのほとりにつながれている、四人の御使いを解き放て。」15 すると、その時、その日、その月、その年のために用意されていた、四人の御使いが解き放たれた。人間の三分の一を殺すためであった。」そして、16 章には、あの有名なハルマゲドンの預言があり、それはユーフラテス川の悪霊の勢力によって誘引されるものです。「16:12-16 第六の御使いが鉢の中身を大河ユーフラテスに注いだ。すると、その水は涸れてしまい、日の昇る方から来る王たちの道を備えることになった。13 また、私は竜の口と獣の口、また偽預言者の口から、蛙のような三つの汚れた霊が出て来るのを見た。14 これらは、しるしを行う悪霊どもの霊であり、全世界の王たちのところに出て行く。全能者なる神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを召集するためである。15 ――見よ、わたしは盗人のように来る。裸で歩き回って、恥ずかしい姿を人々に見られることのないように、目を覚まして衣を着ている者は幸いである――16 こうして汚れた霊どもは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる場所に王たちを集めた。」

そして次の 17 章と 18 章に、大淫婦の預言があるのです。これまで辿ってきたような悪の巣窟の姿です。世界の王たちと淫行を働き、極度に富み、金の杯から飲んでいました。世界を牛耳る獣の上に乗り、その獣には神を冒瀆する名に満ちていました。その金の杯ですが、それは、聖徒たちとイエスの証人たちの血だったのです。大迫害を加える存在です。これを読んだ時の信者たちは、ローマ時代ですから、ローマがパンとサーカスに代表されるような、富に酔いしれ、キリスト者の血を流すことを、エンターテイメントに組み入れていた姿に重ねたことでしょう。ローマも、バビロンの霊が働いていたのです。そして、世の終わりには、バビロンの正体が明らかにされて、同時に、その破滅も定められています。

2A　バビロンに対抗する神の都

神に反抗し、世の終わりまで反抗する都がこのように存在するのですが、神ご自身がバビロンに対抗すべく、都を建てられる歴史も私たちは見るのです。それが先ほど言及した、エルサレムです。

1B　生まれ故郷から約束の地

シンアル地方にあったウルの町では、月の神が拝まれていました。アブラハムがそこにいました。父テラがその神々を拝んでいたのです（ヨシュア 24:2）。しかし、神はアブラハムを呼ばれます。生まれ故郷、父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさいと言われます（創世 12:1）。信仰によって、偶像礼拝から離れ、主に従ったのです。「ヨシュア 24:3 わたしはあなたがたの父祖アブラハムを、あの大河の向こうから連れて来てカナンの全土を歩かせ、子孫を増し、イサクを与えた。」大河、すなわちユーフラテス川の向こうには、偽の宗教があり、悪魔や悪霊が働くところでしたが、その

川を越えて、主が示されたカナン人の地まで来ました。アブラハムから出た家族は「ヘブル人」と呼ばれますが、これが「エブル」から来ているとされており、その意味は、「越える」です。偶像礼拝の場から離れて、主なる神に仕えるために越えて来たのです。

2B　メルキデゼク

そしてカナンの地で、さらわれた、おいのロトとその家族を奪還した時に、不思議な人物がアブラハムを祝福しました。メルキデゼクです（創世 14:18-20）。彼は、サレムの王でしたが、サレムはエルサレムのことです。また彼はいと高き方の祭司であり、イエス・キリストがメルキデゼクと同じ位の大祭司であり、キリストご自身が現れたのではないかとも言われます（ヘブル 7 章）。そして、このエルサレムのモリヤの山で、神はアブラハムに独り子を献げることを命じられ、それが後に父なる神が子キリストを、罪のいけにえとして献げられたところとなります。

3B　ダビデ王朝

そして、主はモーセを通して、荒野の旅が終わり、約束の地に安心して住むようになった時は、ご自分の名を置くところを定めて、そこに人々が礼拝するようになることを示されました。それが、エルサレムでした。ダビデは罪の赦しのために、モリヤの山のエブス人の打ち場を買い取り、そこで祭壇を築きましたが、ここがまさに、神の宮を建てるところだと示されたのです。それを、彼の子ソロモンが建てました。神はここに、ご自分の子キリストの王座を据えて、そこから永遠に治めることを定められたのです（Ⅱサムエル 7:13）。「詩 125:1-2【主】に信頼する人々はシオンの山のようだ。揺るぐことなくとこしえにながらえる。2 エルサレムを山々が取り囲んでいるように【主】は御民を今よりとこしえまでも囲まれる。」

しかし、それを滅ぼすのがバビロンです。しかし、バビロンはそれを滅ぼしたことによる裁きを、ペルシアの王キュロスを通して受けます。そして、そのキュロスのしたことが、神の民の解放と救い、つまり神の都に移されるという、壮大な救いのご計画を示しているのです。「イザヤ 44:26-28 主のしもべのことばを成就させ、使者たちの計画を成し遂げさせる。エルサレムについては『人が住むようになる』と言い、ユダの町々については『町々は再建され、その廃墟はわたしが復興させる』と言う。27 淵については『干上がれ。わたしはおまえの豊かな流れを涸らす』と言う。28 キュロスについては『彼はわたしの牧者。わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。エルサレムについては『再建される。神殿はその基が据えられる』と言う。」」すごいですね、前回、お話しした、キュロス王が、ユーフラテス川を迂回させて、干上がったところを使ってバビロンの中に入ったという歴史が、すでにイザヤによって預言されていたのです。そして、45 章 1 節キュロスは、なんと、「油注がれた者」つまり、メシアと呼ばれます。

そして、神の御子が世に現れます。この方はダビデの子と呼ばれます。エルサレムに行き、その都の外で十字架につけられ、けれども三日目に墓からよみがり、オリーブ山から天に昇られまし

た。そしてもうひとりの助け主、聖霊を注がれて、エルサレムにいる弟子たちの間に教会が生まれたのです。再び、エルサレムはローマによって滅ぼされ、世界中に離散しますが、聖書には数多く、彼らを集めることを約束しています。「詩 147:2【主】はエルサレムを建てイスラエルの散らされた者たちを集められる。」

4B 天のエルサレム

キリストが来られる時に、選びの民を完全に集められます。それが黙示録 19 章に書かれていますが、その手前 17-18 章が、バビロンの破滅についての預言です。バビロンを滅ぼし、そして神の都、エルサレムを確立されるのです。「詩 87:1-3 主の礎は聖なる山にある。2【主】はシオンの門を愛される。ヤコブのどの住まいよりも。3 神の都よあなたについて誉れあることが語られている。セラ」そして千年後、神は新しい天と新しい地を再創造し、そこに天からのエルサレム、神の都を降ろします。

3A バビロンの破滅

では、再びバビロンの破滅についての預言を見ましょう。それは、ベルシャツァルの時代に起こったことに基づいて、終わりの日に主が成し遂げられることも折り重なった預言になっています。イザヤ 13-14 章、エレミヤ 50-51 章、ハバクク 2 章など、バビロンによるエルサレム破壊を見据えて、数多くの預言者が預言をしました。その中で特徴となっている点を、列挙していきます。

1B 諸国の軍隊

第一に、諸国の軍隊がバビロンに攻め行ってきます。

イザ 13:1-8 バビロンについての宣告。これはアモツの子イザヤが見たものである。2「はげ山の上に旗を掲げ、彼らに向かって声をあげ、手を振って、彼らを貴族の門に入らせよ。3 わたしは、わたしに聖別された者たちに命じ、また、わが怒りを晴らす勇士たち、わが威光に歓喜する者たちを呼び集めた。」4 おびただしい民にも似た、山々のとどろく音、集まって来る国々、王国のどよめく音がする。万軍の【主】が軍隊を召集しておられるのだ。5 彼らは遠い地から、天の果てからやって来る。全世界を滅ぼすための、【主】とその憤りの器だ。6 泣き叫べ。【主】の日は近い。それは全能者からの破壊としてやって来る。7 それゆえ、すべての者は気力を失い、すべての人の心は萎える。8 彼らはおじ惑い、子を産む女が身もだえするように、苦しみと激しい痛みが彼らを襲う。彼らは炎のような顔で互いに驚く。

1 節から 5 節までに、メディア・ペルシア連合軍によるバビロンを攻め取る預言になっていますが、9 節から「主の日」となっており、これが神がこの地上の不法に怒りを注ぐ終わりの日の預言になっています。エレミヤは、51 章 1-4 節でこう預言しています。

【主】はこう言われる。「見よ。わたしはバビロンに対し、レブ・カマイの住民に対して、滅ぼす者の霊を奮い立たせ、2 他国人たちをバビロンに送る。彼らはこれを吹き散らし、その地を滅ぼす。彼らは、わざわいの日に、四方からこれを攻める。」3 射手には弓を引かせるな。よろいを着けて立ち上がらせるな。そこの若い男たちを惜しむな。その全軍を聖絶せよ。4 刺し殺された者たちが、カルデア人の地に、突き刺された者たちが、その通りに倒れる。

ハバククも、こう預言しました。

2:8 おまえが多くの国々を略奪したので、ほかのあらゆる民がおまえを略奪する。おまえは人の血を流し、地に暴虐を行った。町々とそのすべての住民に対して。

2:12-14 わざわいだ。血によって町を建て、不正で都を築き上げる者。13 見よ、万軍の【主】によるのではないのか。諸国の民が、ただ火で焼かれるために労し、国々が、ただ無駄に疲れ果てるのは。14 まことに、水が海をおおうように、地は、【主】の栄光を知ることで満たされる。

そしてこの幻が、その時のベルシャツァルの時のものだけではなく、世の終わりのバビロンに起こることが、黙示録 17 章で分かります。16 節です。

あなたが見た十本の角と獣は、やがて淫婦を憎み、はぎ取って裸にし、その肉を食らって火で焼き尽くすことになります。

バビロンが乗っかっていた獣と世界の王たちは、これを滅ぼすのですが、その後に、獣自身もキリストによって滅ぼされます。多くの民によって滅ぼされるというのは、ベルシャツァルの時代に実現しましたが、世の終わりにももっと大きな規模で、実現するのです。

2B 主の日の暗黒

第二の特徴は、バビロンが滅びる辺りには、主が御怒りを地上に下す主の日であり、暗黒の日であるということです。初めに見た、イザヤ書 13 章の続きを見ます。

13:9「見よ、【主】の日が来る。憤りと燃える怒りの、残酷な日が。地は荒廃に帰し、主は罪人どもをそこから根絶やしにする。10 天の星、天のオリオン座はその光を放たず、太陽は日の出から暗く、月もその光を放たない。11 わたしは、世界をその悪のゆえに罰し、悪しき者をその咎のゆえに罰する。不遜な者の誇りをくじき、横暴な者の高ぶりを低くする。12 わたしは人を純金よりも、人間をオフィルの金よりも尊くする。13 それゆえ、わたしは天を震わせる。大地はその基から揺れ動く。万軍の【主】の憤りによって、その燃える怒りの日に。

ベルシャツァルが殺された時に、このことは起こりませんでした。主の日、世の終わりの日に起こることです。天変地異については、イエス様がオリーブ山で世の終わりについて弟子たちに語られた時にそうなると言われたし、黙示録には次々と災いが下ることでそれを見ることができます。

3B 永遠の廃墟

第三の特徴は、バビロンが破壊された後には、永遠の廃墟があるということです。もはや再建されないということです。イザヤ 13 章 20-22 節

20 そこには永久に住む者もなく、代々にわたり、住みつく者もない。アラビア人もそこには天幕を張らず、牧者たちもそこに群れを伏させない。21 そこには荒野の獣が伏し、彼らの家々には、みみずくがあふれる。そこには、だちょうも住み、雄やぎがそこで飛び跳ねる。22 山犬はその砦で、ジャッカルは豪華な宮殿でほえ交わす。その時が来るのは近く、その日はもう延ばされることはない。」

エレミヤも預言しています。

50:11-13 わたしのゆずりの地を略奪する者たちよ。おまえたちは楽しみ、喜び躍り、打穀する雌の子牛のようにはしゃぎ、荒馬のようにいななくが、12 おまえたちの母はひどく恥を見、おまえたちを産んだ者は屈辱を受ける。見よ。彼女は国々のうちの最後のものとなり、荒野となり、砂漠と荒れた地となる。13【主】の御怒りによって、そこに住む者はなく、ことごとく廃墟と化す。バビロンの近くを通り過ぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての打ち傷を見て嘲笑する。

徹底的な裁きです。もう二度と、バビロンは建て直されることはありません。これは慰めです。再びバビロンという世の制度からの圧政を受けなくてよいのです。悪魔からの圧政、罪の圧政の恐怖は戻ってこないのです！エレミヤは、バビロンに対する預言を終えた時に、バビロンに向かう宿営の長セラヤに、その巻き物をユーフラテス川の中に投げ入れるように命じたのです。

51:61-14 エレミヤはセラヤに言った。「あなたがバビロンに入ったときに、これらすべてのことばをよく注意して読み、62 こう言いなさい。『【主】よ。あなたはこの場所について、これを滅ぼし、人から家畜に至るまで住むものがないようにし、永遠に荒れ果てた地とする、と語られました。』63 そしてこの書物を読み終えたら、それに石を結び付けて、ユーフラテス川の中に投げ入れ、64 こう言いなさい。『このように、バビロンは沈み、浮かび上がれない。わたしがもたらすわざわいを前にして。彼らは力尽きる。』」ここまでが、エレミヤのことばである。

そして黙示録。バビロンに対する神の裁きの言葉は、次のようにして終わります。

18:21-24 また、一人の強い御使いが、大きいひき臼のような石を取り上げ、海に投げ込んで言った。「大きな都バビロンは、このように荒々しく投げ捨てられ、もはや決して見出されることはない。22 竪琴を弾く者たち、歌を歌う者たち、笛を吹く者たち、ラッパを鳴らす者たちの奏でる音が、おまえのうちで、もはや決して聞かれることはない。あらゆる技術を持つ職人たちも、おまえのうちで、もはや決して見出されることはない。石臼の音も、おまえのうちで、もはや決して聞かれることはない。23 ともしびの光も、おまえのうちで、もはや決して輝くことはない。花婿と花嫁の声も、おまえのうちで、もはや決して聞かれることはない。というのは、おまえの商人たちが地上で権力を握り、おまえの魔術によってすべての国々の民が惑わされ、24 この都の中に、預言者たちや聖徒たちの血、また地上で屠られたすべての人々の血が見出されたからである。」

4B 御民の避難

第四の特徴は、神の民が逃げなさいと呼びかけらえていることです。エレミヤが、次のように預言しました。

51:45-46 わたしの民よ、その中から出よ。【主】の燃える怒りから逃れ、それぞれ自分自身を救え。46 そうでないと、あなたがたの心は弱まり、この地に聞こえるうわさを恐れることになる。今年、うわさが立ち、その後、次の年にも、うわさは立つ。この地には暴虐があり、支配者はほかの支配者に立ち向かう。

これは、ペルシア帝国になった後のユダヤ人たちの姿が背後にあります。キュロス王が、エルサレム帰還を命じても、それに応じた民はわずかでした。数多くの人たちはそのまま残りましたが、それでエステル記に出てくる、ハマンの悪だくみによるユダヤ民族抹殺の計画があったのです。

そして、これは神のご計画の中では、神の民が世から離れるように、その裁きに巻き込まれないようにという呼びかけになっています。ゼカリヤ書には、こう書いてあります。

2:6-7 さあ、すぐに、北の国から逃げよ。――【主】のことば――天の四方の風のように、わたしがあなたがたを散らしたのだ。――【主】のことば――7 さあ、シオンに逃れよ。娘バビロンとともに住む者よ。』

主は、ソドムとゴモラから、ロトとその家族を逃したいと願われました。それと同じように、バビロンに住む神の民をそこから逃したいと願われています。それは、私たちが世の思い煩いにとらわれず、すぐにでも主によって救われること、つまり携挙されることを願いなさいということです。

黙示録でも、バビロンから逃れなさいという、神の聖徒たちへの呼びかけがあります。

18:4 それから私は、天からもう一つの声がこう言うのを聞いた。「わたしの民は、この女の罪に関わらないように、その災害に巻き込まれないように、彼女のところから出て行きなさい。」

5B イスラエルの回復

そしてバビロンの破壊についての特徴の第五は、イスラエルが回復することです。バビロンの破壊と共にエルサレムへの帰還が呼びかけられ、そして帰還したユダヤ人たちにより神殿が再建されますが、この原型があって、神の民が主のもとに立ち返る預言が数多くあります。先ほど読んだゼカリヤの預言の続き、バビロンから逃れよと呼びかけられた後に、こう預言が続きます。

2:10-12『娘シオンよ、喜び歌え。楽しめ。見よ。わたしは来て、あなたのただ中に住む。――【主】のことば――11 その日、多くの国々が【主】に連なり、わたしの民となり、わたしはあなたのただ中に住む。』このときあなたは、万軍の【主】が私をあなたに遣わされたことを知る。12 【主】は聖なる土地で、ユダをご自分の受ける分とし、エルサレムを再び選ばれる。

イスラエルが回復し、再び憐れみを受けている姿がイザヤ書にもあります。

14:1-2 まことに、【主】はヤコブをあわれみ、再びイスラエルを選んで、彼らを自分たちの土地に憩わせる。寄留者も彼らに連なり、ヤコブの家に加わる。2 諸国の民は彼らを迎え、彼らのところに導き入れる。イスラエルの家は【主】の土地で、その寄留者を男奴隷、女奴隷として所有し、自分たちを捕らえた者を捕らわれ人にし、自分たちを追い立てた者を支配するようになる。

これまで虐げられてきましたが、神の国において、回復したイスラエルは、神の正義と憐れみによって人々を治めるようになります。

6B 国々の嘆き

そして、第六の特徴は、「バビロンにより頼んでいた国々が、その破滅を嘆き悲しむ」ことです。バビロンは、女王として君臨し、安逸をむさぼっていると預言書には描かれています。イザヤが預言しました。

47:5-9「娘カルデア人たちよ。黙って座り、闇に入れ。あなたはもう、国々の女王と呼ばれることはないからだ。6 わたしは、わたしの民を怒って、わたしのゆずりの民を汚し、彼らをあなたの手に渡したが、あなたは彼らをあわれまず、老人にも、ひどく重いくびきを負わせた。7 あなたは『いつまでも女王でいよう』と考えて、これらのことを心に留めず、自分の終わりのことを思うことさえしなかった。8 だから今、これを聞け。楽しみにふけり、安心して住む女よ。心の中で、『私だけは特別だ。私はやもめにはならないし、子を失うことも知らなくてすむ』と言う者よ。9 子を失うことと、やもめになること、この二つが一日のうちに、瞬く間にあなたのところにやって来る。あなたがどんな

に多く呪術を行っても、どんなに呪文の力が強くとも、これらは突然あなたを見舞う。

ベルシャツァルの圧政の中で、多くの人々が苦役を強いられ、重税に苦しんでいました。女王のように居座っていたのです。それが、突然、破滅が襲ってきます。

そして、このバビロンに紐ついて、自分たちも甘い汁を飲んでいた国々がありました。それらもバビロンの破壊で、大きな損失をこうむり嘆きます。エレミヤが預言します。

51:7 バビロンは【主】の手にある金の杯。すべての国々はこれに酔い、国々はそのぶどう酒を飲む。それゆえ、国々は正気を失う。

バビロンは、女として描かれ、女王として描かれているだけでなく、汚れた女、淫婦としても描かれています。それは、このことのゆえで、地上の国々が彼女の富によって潤いを得て、不正の利益を得ているからです。ゼカリヤが、「エパ枡の中の女」の幻を見ます。

7 見よ。鉛のふたが持ち上げられると、エパ升の中に一人の女が座っていた。8 彼は、「これは邪悪そのものだ」と言って、その女をエパ升の中に閉じ込め、エパ升の口の上に鉛の重しを置いた。

そして黙示録 17 章に、巨額の富を得て、金の杯で飲んでいる大淫婦の姿が出てくるのです。そして、18 章に、バビロン倒壊の宣言がなされます。それと共に、地上の王たち、商人たち、貿易の船舶業の者たちが嘆き悲しむ姿が出てきます。そして御使いが宣言します。

18:7-8 彼女が自分を誇り、ぜいたくにふけった分だけ、苦しみと悲しみを彼女に与えなさい。彼女は心の中で『私は女王として座し、やもめではない。だから悲しみにあうことはない』と言っているからです。8 これらのことのため、一日のうちに、様々な災害、死病と悲しみと飢えが彼女を襲います。そして、彼女は火で焼き尽くされます。彼女をさばく神である主は、力ある方なのです。」

7B 偶像礼拝への裁き

そして第七の特徴は、バビロンが偶像礼拝に満ちていることです。それに対する神の裁きが宣言されています。イザヤは、こう預言しました。

46:1-2「ベルはひざまずき、ネボはかがむ。彼らの像は獣と家畜に載せられる。あなたがたの荷物は、疲れた動物の重荷となって運ばれる。2 彼らはともにかがみ、ひざまずく。重荷を解くこともできず、自分自身も捕らわれの身となって行く。

ペルシアによって滅ぼされた時に、バビロンの人々は自分たちの偶像を持って出て行きますが、それが重荷となっているという、なんとも笑えない皮肉を神は語られています。

エレミヤはこう預言しました。

50:38 日照りがその水の上に下り、それは涸れる。そこは刻んだ像の地で、偶像に狂っているからだ。

ゼカリヤも預言しました。先に、エパ枡の女の幻を見ましたが、続けてこんな話があります。

5:9-11 それから、私が目を上げて見ると、なんと、二人の女が出て来た。その翼は風をはらんでいた。彼女たちには、こうのとりの翼のような翼があり、あのエパ升を地と天の間に持ち上げた。
10 私は、私と話していた御使いに尋ねた。「この人たちは、エパ升をどこへ持って行くのですか。」
11 彼は私に言った。「シンアルの地に、あの女のために神殿を建てるためだ。それが整うと、そこの台の上にその升を置くのだ。」

不正の富がシンアルの地に運ばれ、そこで神殿が建てられるのです。富におぼれ、そして偶像に満ちています。

そしてこの偶像に満ちた国が破壊された時に、その廃墟には悪霊どもが住むと宣言されます。地上において近づくこともないところとなるのです。黙示録 18 章です。

18:2 彼は力強い声で叫んだ。「倒れた。大バビロンは倒れた。それは、悪霊の住みか、あらゆる汚れた霊の巣窟、あらゆる汚れた鳥の巣窟、あらゆる汚れた憎むべき獣の巣窟となった。

神の国、千年間のキリストの統治において、全世界は神の栄光に満ち、キリストの知識に満ち、それゆえすべてがエデンの園のように回復されます。けれども、そのエデンの園があった付近、バビロンは悪魔が落ちて、悪霊どもが働き、富と不正をため込んだ世の象徴となり、それが滅ぼされると、そこは悪霊の住処として、永遠の廃墟が定められているのです。大きな都バビロンは滅ぼされ、永遠の御国の都エルサレムが建てられているのです。

そして、新天新地においても、天からの都が降りてきても、その都に入れなかった者たちは、第二の死と呼ばれているゲヘナで苦しんでいますが、そういった者たちが行っていたことは、バビロンでは当たり前に行われていたことなのです。

黙 21:8 しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を

行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。」

「上にあるものを思いなさい。地にあるものを思ってはなりません。」というコロサイ書 3 章 2 節にある、パウロの勧めはしかと心に留めておかないといけないですね。ペテロは、第二の手紙で、新天新地は、義の宿っているところだと言いました。「3:13 しかし私たちは、神の約束にしたがって、義の宿る新しい天と新しい地を待ち望んでいます。」

バビロンとエルサレム、それは、世と世の欲に対する、神の愛との対比であると言ってもいいかもしれません。ヨハネが第一の手紙でいったことを引用して、終わりたいと思います。

2:15-17 あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。16 すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。17 世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に生き続けます。